

## 来年度の検討内容（案）

本検討委員会では、最終的に全国の閉鎖性海域に適用可能な円滑な物質循環を達成するための管理方策の策定手引き（以下、「海域のヘルシープラン策定の手引き（仮称）」と言う。）を作成する。

本年度は統括委員会においては、新たなモデル地域（三津湾）での調査内容の検討、「海域のヘルシープラン策定の手引き（仮称）（案）」の作成、海域の健全性指標の検討及び物質収支モデルによるモデル地域の実証試験の効果の検討を行った。

また、各モデル地域の地域検討委員会においては、現地調査や実証試験、地域懇談会の開催等を行い、地域の物質循環の課題の把握や課題改善に向けた検討を行い、来年度は各モデル地区のヘルシープランの策定が行われる予定である（三津湾を除く）。

三津湾では本年度に引き続き、夏季に向けて現地調査も実施される予定である。

これらの結果を踏まえ、来年度行うべきと考えられる物質循環健全化計画の検討内容を示す。

### 【H24年度の本委員会での検討内容（案）】

#### 1. 「海域のヘルシープラン策定の手引き（仮称）」の作成

→本年度作成した「手引き（案）」について、モデル地区での検討結果を更に加えるなどし、取りまとめる。

#### 2. 地域WGの全体統括

→地域WGとの連携をはかり、海域の物質循環健全化計画策定（各地域のヘルシープランの策定）を推進する。

#### 3. 物質収支モデルによる検討

##### ・物質収支モデルの精度向上・物質循環の現状把握等

→三津湾については、本年度作成したベースモデルの精度向上等を行い、現状再現モデルを完成し、地域の物質循環の現状を把握する。

##### ・管理方策の効果のモデルによる検証

→現地調査や実証試験結果を受け、モデルの精度向上を図り、管理方策（案）を組み込んだモデルを構築し、予測結果を地域WGに示す。